



GE ヘルスケア・ジャパン株式会社

災害時の弊社装置の安全確認について

謹啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

災害後の各装置を緊急復旧させる為に行う確認方法は、弊社コールセンター(0120-055-919)にご連絡下さい。下記にご案内させていただきます項目を確認し、最大限の安全確保に努めさせていただきます。

謹白

記

各装置共通確認項目 - 全装置で必要な項目

1. 機器が濡れていないこと。
2. 機械室のエアコン及び除湿器が稼動していること。
3. 床に固定されているキャビネットやガントリー、テーブルの位置がずれていないこと。
4. 発煙、異臭、異音、粉塵、落下物等がないこと。
異常を確認したら速やかに装置の電源を切ること。

各装置個別の確認項目

1. 一般X線撮影装置
 - 天井走行部のコラムを 90 度回転させた状態で、天井走行部を前後、左右、上下に動作させ、天井が下がらないこと。
 - 立位台の横に立ち、パネルを上下させ、立位台と床の設置部分が床から上がらないこと。
 - 伏位テーブルを最上高まで上げ、さらにテーブルトップを一番端までスライドさせた状態で体重をかけ、テーブルと床の設置部分が床から上がらないこと。
2. 乳房用 X 線診断装置(マンモグラフィー)
 - 防護ガラス付コンソールがある場合はコンソールを前後に揺らし、床との設置部分が床から上がらないこと。
 - アームを+180 度から-180 度まで回転させ、アームと床の設置部分が上がらないこと。
3. 血管撮影装置
 - フロントラル L アームを +90 度から -90 度まで動かし、アームと床の設置部分が床から上がらないこと。
 - ラテラルアームをパーク位置から ISO 位置まで移動し、天井が下がらないこと。
 - テーブルを最上高まで上げ、更に一番前に出した状態で前方部分に体重をかけ、テーブルと床の設置部分が床から上がらないこと。
 - モニター台を動かし、天井が下がったりしないこと。

4. MR 装置 - マグネット

- 停電時はヘリウムが検査室内に充満している恐れがあるため、立ち入らないこと。また、誤って人が入らないように注意喚起を表示すること。
- 停電復旧後の対応として下記を実施する。MR の操作を熟知している人が実施すること。
 - 磁性体を持って入出しない。
 - 強制換気を手動で動作させる。(検査内にヘリウムが充満している可能性があるため)
 - 酸素モニターの電源が入っていることを確認し、1 時間は入出せずモニター表示を確認すること。
 - 検査室のドアを開き 10 分以上待ってから入出すること。
 - 酸素モニターが異常値もしくは 18% 以下の場合には入出しないこと。(通常 20.8% 近辺)
 - マグネット上部の排気管部分が外れていないこと。また、壊れていないこと。
 - 液体ヘリウムの残量を確認し、50% 以上あること。50% を下回っている場合は検査せず、液体ヘリウムの注液を至急行うこと。
 - シールドルーム及びシールドルームのドアが正常であること。ドアが開かなくなり閉じ込められないようにする。

マグネットの内圧が高くても検査は可能である。冷凍機を稼働させ、数日経過すると圧力は正常値まで戻ります。

5. CT 装置

- 機器固定用アンカーボルトでガントリーやテーブルが確実に固定されていること。

6. 核医学装置および PET/CT 装置

- 機器固定用アンカーボルトでガントリーやテーブルが確実に固定されていること。
- 全てのコリメータがコリメータ置き台(シェルフ)あるいはコリメータカート上にしっかり固定されていること。
- テーブルを最上高まで上げ、更にクレードルを一番前に出したときに、クレードルとガントリーが接触しないこと。
- テーブルを最上高まで上げ、更にクレードルを一番前に出した状態で前方部分に体重をかけ、テーブルと床の設置部分が床から上がっていないこと。

7. 麻酔器

- シーリングペンダント吊り下げのタイプは、シーリングペンダントが正常に取り付けられていること。(脱落がないこと)
- 装置内部から「シューシュー」と言うリーク音が発生していないこと。
- 耐圧ホースにも亀裂や「シューシュー」音を立てるリークが発生していないこと。

以上